

小学校	割り算に苦手意識がある児童へ筆算の仕方を動作化してこつを伝える指導
-----	-----------------------------------

- ★対象児童 中学年 (算数障害)
- ★対象児の特徴
- ・九九や、たし算ひき算ができるが、手順に沿って、わり算のひっ算をすることが苦手である。
  - ・位を意識して、わり算の商をたてることが苦手である。
- ★目標
- ・指で位を意識しながら、商のたてかたが分かり、商をたてることができる。
  - ・わり算の手順を覚えることができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

**[学習内容と指導方法]**

① どの位に商がたつか指一本で考える (例  $552 \div 2$ )

$24 \overline{)5 \cancel{5} 2}$  ← 5の中に24はとれません。

$24 \overline{)5 \cancel{5} \cancel{2}}$  ← 55の中に24はとれます。とれる位に0をかく。

② 商を指二本で考える。

$2 \overline{)5 \cancel{5} 2}$  ←  $5 \div 2$  は、 $2 \times 2 = 4$  で2がとれる。0の中に2をたてる。

$24 \overline{)5 \cancel{5} 2}$  ← 24に28かける

$\begin{array}{r} 24 \overline{)5 \cancel{5} 2} \\ \underline{48} \phantom{2} \\ 72 \end{array}$  ← 55から48をひく

2をおろす。

覚え方

たてる  
かける  
ひく  
おろす

① どの位から  
② どの位に  
おろす

③ 以下同じで指二本で商を考える。

$2 \overline{)5 \cancel{5} 2}$  ← 指二本で数字を隠し

$\begin{array}{r} 2 \overline{)5 \cancel{5} 2} \\ \underline{48} \phantom{2} \\ 7 \phantom{2} \end{array}$  ←  $7 \div 2$  は  $2 \times 3$  で3がとれる 3を上につける

～以下同じ～

**[児童生徒の様子、成果]**

- ・指本で余分な数字を隠すことにより、位を意識して商をたてることができた。
- ・指本で余分な数字を隠したことで、どの数から、どの数をわるかが意識できた。
- ・割算の順序を語呂合わせて覚えることができた。

小学校	場面緘黙が見られる児童への、担任や家庭と連携した指導
<p>★対象児童 中学年（場面緘黙）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族、いとこ、特定の1名の友達と会話をすることができる。</li> <li>・ 上記以外の人がいる場所では、たとえ上記の人との共有空間であったとしても話すことができない。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めての場所に自分から足を向けることができる。</li> <li>・ これまで話せなかった人の前でも緊張せずに過ごすことができる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 母親、妹（5歳児）とともに通級教室にある備品を用いて楽しく遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トランポリン、バドミントン、スポンジボールによるボールの当て合い、ウノ、トランプ、すごろく、サイコロゲーム、黒ひげ危機一髪などから、やってみたいものを選んだ。</li> <li>・ 母親と妹の同行が得られない場合には、通級教室に来ることができない。</li> </ul> </li> <li>2 筆記型教材による学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊具使用だけでは、飽きてしまう可能性がある。コミュニケーションに関するSSTや語彙を増やす教材を用いた学習をすることにより、指導効果を高めることをねらった。</li> <li>・ 本人が筆記型教材に取り組むことを了承し、指導可能範囲が広がった。</li> </ul> </li> <li>3 本人の要望に応える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通級での学習に慣れて笑顔が見られ始めた頃、活動時間中に応援に駆け付けた担任と母親が教育相談的な話をしたことを本人が嫌った。そこで、担任には本人のいないところで母親と話をしてもらうように依頼した。</li> <li>・ 筆記型教材による学習ができることを、本人と母親とともに喜んでいたら、夏季休業を挟んで9月に通級の授業を行った際、筆記型教材を用いた学習に抵抗を感じていた。</li> <li>・ そこで、ボールなどを用いた学習に戻し、通級での学習に楽しく取り組めるよう配慮した。</li> <li>・ 本人が担任との通級での活動を一緒にしたいと母親に伝えたタイミングで担任に協力を要請し、一緒にボール当ての活動を楽しんだ。</li> </ul> </li> </ol> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通級開始後しばらくは、担任に付き添われて入室していたが、2か月ほど経った頃から一人で通級教室まで来て、母親や妹とともに笑顔で活動を楽しめるようになった。</li> <li>・ 通級教室内に私がいなくても母親に話しかけることができるようになった。</li> <li>・ 担任にも一緒に活動してもらいたいという希望を母親に伝えることができた。</li> <li>・ 放課後の運動部の練習に参加し、陸上における50m走のタイムと自分の名前を2年生の時の担任である記録の先生にはっきりと伝えることができた。2、3年生の時の担任と現担任、保護者らとともに、本人の成長を喜び合った。</li> </ul>	

小学校	書字障害の児童への漢字・ローマ字指導と SST の指導
-----	-----------------------------

- ★対象児童 高学年 (ADHD・書字障害)
- ★対象児の特徴
- ・ 字の形を整えて書いたり枠の中に入れて書いたりすることが難しい。漢字を読むことはできても覚えて書くことが難しい。ローマ字の学習に関しても形をとらえたり、「n」「h」など細かな文字の違いをすぐに認識したりすることが難しい。
  - ・ 友だちと仲よくしたいと思っはいるが、自分の思いにとらわれて、友だちからの注意を素直に聞き入れられなかったり、素直に非を認められなかったりして、トラブルになることがある。コミュニケーションも稚拙で、言葉かけや注意の仕方も一方的であったり自分本位な言い方になったりする。
- ★目標
- ・ ビジョントレーニングや細かな文字を書くトレーニングを集中して行う。
  - ・ ローマ字入力に慣れて短い文章を打つことができる。
  - ・ 登場人物の気持ちになって友だちにアドバイスをすることで身近な問題を解決する。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

- ① ウォーミングアップ活動
  - ・ 点むすび・間違いさがし・水書き・小さな丸の始めと終わりの部分を結ぶ。
- ② 漢字タイム
  - ・ 5年生の今までの漢字を含む熟語の読みを単語カードで復習する。
  - ・ 漢字アプリで4年生の問題を復習する。
- ③ アドバイス名人になろう。
  - ・ A君・B君のトラブルの場面の対処の仕方について具体的な言葉や行動を考えることで、問題解決能力を養う。
  - ・ 選択肢をいくつか準備し、すぐに分からないときは一番近い気持ちを選ばせるようにする。
  - ・ 言い方などにも気を付けながらロールプレイすることで、実際の生活場面にも適切な言動が取れるようにする。
- ④ 一言反省をタブレットのローマ字入力で記録する。



<参考書籍> かもがわ出版  
SST ワークシート

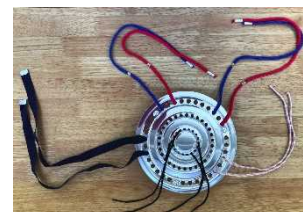
[児童生徒の様子、成果]

- ★ 始筆と終筆を意識して小さな丸を書くことができた。算数のノートの字も整えて書くように意識するようになってきた。水書きでは見本をよくみて「とめ」「はね」を意識して自分の名前を書くことができた。
- ★ タブレットの漢字練習やローマ字練習は、自学自習ができ自分のペースで進められるのが本児にあっていてよかった。自信にもつながり自主勉強ノートも漢字練習を選んですることが頻繁になってきた。
- ★ 「わざとでなくても、友だちの物を壊したり、嫌な思いをさせたりしたら謝ることが必要だ。」ということをいろいろな状況で考えたが、なぜ謝る必要があるのか理解できず、素直に謝れない。教師の助言もきちんと理解できないため、クラス担任と連携をとって実際の友だち関係の中で解決するようにした。

小学校	児童とともに評価をして、目標の設定を行う「個別の指導計画」を活用した指導
<p>★対象児童 高学年（自閉症スペクトラム症、多動性障害〈注意欠如型〉）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと関わりたいという思いは強いが、相手との距離感や、会話での言葉の選択ミスにより不愉快な思いをさせてトラブルになる。</li> <li>・手先が不器用なため、コンパスや定規の扱いが思い通りにできなったり、単位の間違いなどのケアレスミスをしたりするので、算数に対して苦手意識がある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の自分を振り返り、後期に頑張ることや、得意なことを伸ばすことについて考えて目標を立てる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①前期の自分を振り返る</p> <p>○個別の指導計画ファイルの「指導目標（短期目標）」、「指導の評価（◎○△）」を見ながら振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「根気強く取り組み、最後まで成し遂げることができたよ。」「答えを書いた後、見直しができていないな。」</li> </ul> <p>②後期の目標を立てる</p> <p>○前期にできなかったこと、これからできるようになりたいことを一緒に考える。</p> <p>(1)「先生に言われなくても見直しができるようになりたいな。」</p> <p>目標その1 『見直しをする習慣をつける。』</p> <p>(2)「語彙が少ないから、友だちに上手に言うことができなくて、誤解される。本当の思いが伝わっていない。だから語彙を増やしたい。」⇒〈読書家だから語彙は豊富だよ。言葉の選択ミスでそうなるのではないかな？友だちとのやりとりの話を聞いていたらそう思うよ。〉</p> <p>「言葉の選択を間違っているんだな。そういうスキルを勉強すればいいんだ。」</p> <p>目標その2 『友だちとのやりとりを振り返り、言葉の使い方を見直すことができる。』</p> <p>(3)「困りごとを友だちや先生に説明する時、泣いてしまう。回数は減ってきたけれど。」⇒〈どうして涙が出るんだろう。〉</p> <p>「話をしようと思うと、そのことを頭の中でイメージして、それにはまってしまうから涙が。」</p> <p>⇒〈過去は変えられない。〉〈これから先のこと、解決方法のイメージを広げてみるといいのかな。〉〈自分にぴったりの作戦を一緒に見つけよう。〉</p> <p>目標その3 『伝えたいことを、相手にしっかり伝えることができる。』</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <p>★前期を振り返ることで、自分の成長を確認することができ、自信にもつながっていた。</p> <p>★教師と一緒に振り返りながら目標を考えることで、目標を自分の事として意識し、「後期も頑張るぞ。」という意欲が伝わってきた。</p>	




小学校	感情をコントロールして時間を守った行動をするための個に応じた指導
<p>★対象児童 高学年 (自閉症スペクトラム、ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の理解力が高く、授業内容の理解が速い。</li> <li>・友だちと話をすることが好きで、楽しく学校生活を送れているが、話すことに夢中になりすぎるあまり、すべきことが後回しになってしまう。</li> <li>・時間を意識して行動することが難しく、授業の開始時刻を守ることが難しい。</li> <li>・怒りの感情が溜まると、暴力的になってしまうことがある。</li> <li>・書くことが面倒だと感じていて抵抗感があるため、授業のノートはほとんど書かない。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべきことを優先し、決められた時間を守って行動ができる。</li> <li>・怒りの感情を適切な表出方法で消化または発散することができる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>①スケジュールを決める  授業開始前に書く。ミニホワイトボードに日付と曜日（カレンダーで確認する）を書き、今の気持ちカードを貼った後、活動内容を決める。自分でスケジュールを作成することにより、意欲の向上と見通しをもつことに繋がると期待している。</p> <p>②体幹トレーニング  体幹が弱く、すぐに姿勢が崩れるので、お腹に力を入れることを意識して、バランスディスク上で両足立ちをするトレーニングをしたり、椅子にバランスディスクを乗せてその上に座り授業を受けたりする。</p> <p>③こんな時どうする？これって〇？×？  本児が困りそうな場面や、実際に起こった事案を問題にして、自分はどのような言動をとればよいか、理由と共に考える。</p> <p>④トークカード「トーキングゲーム」「すきなのもっち？」で聞く力を育む  本児は話すことは得意だが、人が話しているのを聞くことが苦手（最後まで聞かずに話し始める）であるため、人が話している時は聞くこと、質問は全部聞いてからすること、うなずきながら聞くこと等を練習する。</p> <p>⑤生活上のスキルを身に付ける（蝶結びの練習）  蝶結びや袋の口縛りなど、日常生活スキルを獲得する課題に取り組む。</p> <p>⑥アンガーマネジメント  理解力のある児童であるため、怒りの感情のメカニズムから学ぶ。怒りの感情が芽生えたら、どのように対処すべきなのか考える。  ☆（参考資料「イラスト版子どものアンガーマネジメント／合同出版」）</p> <p><b>[児童生徒の様子、成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべきことを把握しているが、したいことを優先してしまう傾向は変わっていない。しかし、以前よりも時計を気にして行動しようとしている姿が見られるようになった。また、面倒くさそうにしながらでも、すべきことを優先して行動することができるようになってきた。</li> <li>・怒りの感情を不適切な方法で表出することが減ってきた。</li> <li>・人が話している時に、遮って話したり質問したりすることが減ってきた。</li> </ul>	



【蝶結び練習】100均の道具で手作りした物。2本の色を変えたり、つまむ所にテープで印を付けたりしている。紐の長さや太さも変えてレベルアップを感じられるようにしている。

小学校	物事を多面的に、ネガティブ思考をポジティブ思考に置き換えてとらえる指導
<p>★対象児童 高学年（ASD、ADHD）</p> <p>★対象児童生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物事に対して、こだわり、マイナスに受け止めることが多く、そのためにストレスがかかり、不登校傾向が出たり友達関係がうまくいかなかったりすることがあり、本来の力が発揮できない。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの出来事について、いろいろな見方や考え方ができるようになる。 【自立活動 3 人間関係の形成-（3）】</li> <li>・情緒の安定、気持ちのコントロール、周囲の人との良好な関係づくり 【自立活動 3 人間関係の形成-（3）、2 心理的な安定-（3）】</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容や指導方法]</p> <p>① 相手を承認し合うゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「そうだねゲーム」をする。教師とペアで、周りのものの中から一つの物を選び、「これは〇〇です。」 と一人が言うと、もう一人が「そうだね。」とうなずきながら目を合わせて返事をするゲームで、これをする中で、承認し合う方法を知り、気持ちよさを感じることができる。</li> </ul> <p>② ネガティブ思考をポジティブ思考にするゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に、イライラした経験を教師に話してくれたことを称賛する。話すことで、そのことを客観視することができているからである。その上で、お相撲さんの絵を見せて、「この人はどんな人ですか。」と聞くと、「太っている。」と言う。「他の言い方をしてみたら。」と突っ込みを入れて、「強そう」「たくましい」という言葉を引き出していく。この例のように、一つのものごとに対して、違う見方をしていくゲームだと紹介する。カードには、表にはネガティブ思考の言葉を青で、裏にはポジティブ思考の言葉を赤で、書いている。例えば表に「目立ちたがり」裏に「積極的」など。自分が考えたいカードを選び、並べる。表の青い文字のネガティブな言葉を、ポジティブな言葉に言い換えて、裏返す。当たっていたら褒める。近い言葉でも意味が合っていたら見つけようとしたこと、見つけたことに対して褒める。</li> </ul> <p>③ 生活の場面で、イライラしてストレスを感じた時のことを思い出し、「相手の視点に立つことや相手の気持ちになる」ことを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば、本児の場合、音楽室でのトラブルを振り返る。相手の席から見た見え方を写真で撮り、自分から見た見え方と比べることで、相手の行動を理解するきっかけとした。そうすることで、相手の気持ちの理解にもつながった。「もしかして」という言葉を使って考えるとよいことを学んだ。</li> </ul> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 何度かこのような学習を行うことで、「あ、ぼく今、ネガティブ思考をしているな。」と、ある意味、自分を俯瞰することができるようになってきた。友達との関わりの中で、こだわりが減り、トラブルが減ってきた。</li> <li>★ 表情が明るくなり、不登校傾向がなくなり、落ち着いて学級で過ごせるようになってきている。</li> </ul>	

小学校	「話す」「聞く」「進行する」役割を体験しながらコミュニケーション力を高める指導
<p>★対象児童 高学年 3 名 (ASD2 名・ADHD1 名)</p> <p>★対象児の特徴</p> <p>A 児 (ASD) : 本来は明るく前向きな気質であるが、学級集団では発揮できていない。場面の状況を解せず発言してしまう。</p> <p>B 児 (ASD) : 知的能力が高い。 自分の思いを表現できず、他児の心情を考慮しない言動が見られる。 家庭の発達障がい理解が深く、連携した支援が可能である。</p> <p>C 児 (ADHD) : 絵を描くなど静的な活動が好きである。 コミュニケーションに乏しく、課題が達成できない。</p> <p>★目標 相手や状況に応じたコミュニケーションができる。</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>3 人トークの SST 「話し手」「聞き手」「司会者」など三者に分かれての 3 人トークを行う。その SST を通して、「話す」(能動)「聞く」(受動)「司会」(調整)それぞれのスキルを学び、役割を交代しながらそれぞれの立場に立ってその心情を理解する。 トークのテーマ例として、「修学旅行」「好きな〇〇」「こんなことがあったらどうする?」「ルールを守っていない人がいたら…」「〇〇と言われたら…」など</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <p>—A 児— 3 人の中では明るいムードメーカーとなり、3 者の関係を円満に保ちつつ、コミュニケーション活動ができた。自分の思いを強く押しすぎることはあったが、「聞く」立場を経験し、学ぶことができたことで、やりとりがスムーズになる場面が増えた。</p> <p>—B 児— 入級前「学校が楽しくない」と自尊感情の低下が認められていたが、「話す」立場になってスキルを学び自分の思いや考えを話すことができるようになったこともあってか、「学校が楽しい」と言うようになった。また、客観的な立場を経験することで、自分を冷静に振り返ることもあり、対人関係のトラブルが目立たなくなってきた。</p> <p>—C 児— コミュニケーションスキルの練習を繰り返すことで、心理的な安定が図られ、ノートを書いたり課題をやり遂げたりすることも増えた。ただ、目標を設定しプランニングして取り組む「実行機能」の弱さについては課題が残るので、さらなる個別の手だてが必要であると考えている。</p>	

小学校	なりたい自分像に近づくために感情をコントロールする力を育む指導
<p>★対象児童 高学年（自閉症スペクトラム障害）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの立場の人の気持ちについて考えることが苦手で、自分本位の行動をとるため、トラブルにつながる。</li> <li>・他者に認めてもらいたいという気持ちがある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感情の理解を深め、自分にとって心地よい環境を知り、感情をコントロールできるようにする。【自立活動 2心理的安定—(1)】</li> <li>・得意なことや見直したらよいことを認識し、なりたい自分像に近づける言動をとることができる。【自立活動 3人間関係の形成—(3)】</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①自分を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入で、最近の自分の様子を振り返る。トラブルが起きた時は、『こんな時どうするの』というワークシートを活用し、その時の状況や気持ちを整理し、どうすればよかったかを一緒に考える。</li> </ul> <p>②順番を守り、人の話を妨げずに聞くソーシャルトレーニングをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取りワークシート</li> <li>・サイコロトーク</li> </ul> <p>③野菜づくりのリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の育て方をインターネットで調べて、管理職に伝える。</li> <li>・野菜づくりの仲間を募集する。</li> </ul> <p>(全校生向けの放送原稿・ポスターづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水やり・草抜き</li> <li>・中学校の生徒会と協力して、収穫祭の企画・準備・実行</li> </ul> <div data-bbox="1177 1048 1353 1294" style="text-align: right;">  </div> <div data-bbox="1090 1301 1439 1467" style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかな がわ編著・かもがわ出版</p> </div> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★トラブルが起きたときは、以前は自分のことばかり主張していたが、ワークシートを活用して整理することで、相手のことにも目が向けられるようになった。</p> <p>★興味がある話題に関しては、人が話し終わるのを待たずに口を挟んでしまうが、通級指導教室で行うSSTは、最後まで話を聞いて活動ができるようになった。</p> <p>★「めんどろ、しんどい」と逃げることが多かったが、野菜づくりのリーダーになり、自分から積極的にポスターを作ったり放送原稿を書いたりすることができた。栽培活動では、年下の児童に優しく接することができた。収穫祭では、中学生と一緒に司会をすることで、良いモデルを身近に感じることができ、中学校に向けての希望をもつことができた。</p>	

小学校	不安な気持ちを軽減する対処法を考え、実践につなげる指導
-----	-----------------------------

★対象児童 高学年 (ASD)

★対象児の特徴

- ・不安な気持ちが強く、人前で発表したり、新しいことに取り組んだりするのが苦手。
- ・うまく友達関係をつくっていけるか不安で気持ちが乱れることがある。

★目標

- ① 自分の不安の原因や不安になっているときの状況を理解することができる。
- ② 自分に合った不安な気持ちの解消法を考えることができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

① 不安な気持ちと行動の理解

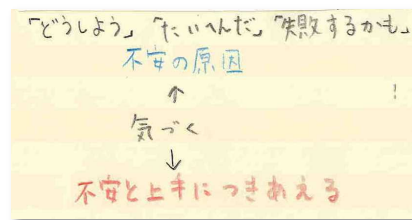
- ・どんなときに不安になるか書き出し、点数をつける。(写真1)
- ・不安なとき自分の体や行動はどうなっているか、例をもとに考える。(写真2)
- ・自分の考え方のくせを知る。(写真3)

1位	発表 (85) 点
2位	はじめての人 (80) 点
3位	はじめての場所 (75) 点
4位	高いところ (70) 点
5位	くらいいとこ (50) 点

【写真1】



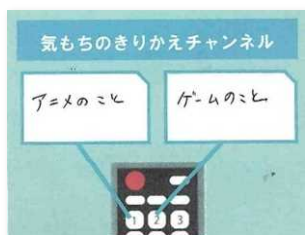
【写真2】



【写真3】

② 不安な気持ちの解消法の練習

- ・呼吸法、筋弛緩法、イメージ法等を知り、練習する。(写真4)
  - ・考え方の幅を広げる練習をする。(写真5)
  - ・困ったときに対応できる方法を考える。
- (あらかじめ頼る人を考えておく。学習した内容をまとめたノートを見る。)



【写真4】



【写真5】

[児童生徒の様子、成果]

- ・自分が困っていることを先生や親にすぐに話せるようになった。
- ・不安な気持ちを大きくしすぎて行動に制限がかかることが減った。
- ・無理に友達に合わせる必要がないことを理解し、自分の気持ちを大切に過ごせるようになってきた。



小学校	感情のコントロールが苦手な児童への指導
-----	---------------------

- ★ **対象児童** 高学年 (自閉症スペクトラム)
- ★ **対象児童生徒の特徴**
  - ・ 「できない」「(周囲より)遅い」と感じるとパニックになり、大声で叫んだり泣いたりすることがある。腕をひっかく、髪を抜こうとするなどの自傷行為も見られる。
  - ・ 学習に対する意欲は高く一生懸命取り組む。自信があれば一人でも楽しくできる。
- ★ **指導目標**
  - ・ パニックとなった時にクールダウンする方法を知り、自分を落ち着かせようとするができるようにする。 【自立活動 心理的安定一(1)】
- ★ **参考資料**
  - ・ 「イラスト版子どものソーシャルスキル 友だち関係に勇気と自信が付く 42 のメソッド」(合同出版)

[学習内容や指導方法]

通級指導教室の入り口に、鏡に自分の姿を映して服装チェックをする「服装チェック1・2・3!」の掲示をし、毎回自分の姿を見られるようにしていたところ、確実に実践し、服装を整えることができていた。

そこで、その横に「イラスト版子どものソーシャルスキル」の中で紹介されている「落ち着けのスキルセット」を取り出した教材を用意し、般化に繋がれるよう設置した。通級指導で毎回練習をして入室するようにしている。

**「落ち着け」のスキルセット**

- (1)口を閉じて深呼吸する。
- (2)数を数える。  
普通に数えるので良いが、より確実に数えるために数カードを用意し、それをめくりながら数える。
- (3)「落ち着け」の自己会話を使う。
- (4)心地よい風景を頭のなかにえがく。



【「落ち着け」のスキルセット】



【数を数える】



【服装チェック 1・2・3!】

(1)～(3)までは問題なくできる。(4)はやや難しかったので担当教員と「〇〇浜で海を見ていると落ち着くよね。」などイメージを共有することで心地よい風景を考えることができた。担任や保護者とは通級のファイルを通して行っていることの共有ができるようにしている。継続することで特別意識しなくても自然に実行できるようになると良いと考え、取り組みを続けている。

[児童生徒の様子、成果]

- ・ 学校では、間違った時に、泣いたり叫んだりする時間が短くなってきている。
- ・ 教室でどうしても無理な時は別室でクールダウンしているが、深呼吸、数を数えるなど部分では行えているようである。

小学校	衝動的な言動がある児童への指導
<p>★対象児童 高学年（自閉スペクトラム症）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを優先しすぎてしまうことで、友だちに言い過ぎてしまうことがある。</li> <li>・なかなか自分の非を認められない。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを想像して、どのような言動を取ることが適切か考える。</li> <li>・行動の結果、どのようなことが起こるか理解し、より適切な行動について考える。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①気持ちを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な呼吸法を学習の始めに継続して行う。</li> <li>・その際に、「いらいらしてしまったときに使うといいね。」等と助言するようにした。</li> <li>・背面黒板に掲示してき、いつでも呼吸法を確認できるようにしておいた。</li> </ul>  <p>※学級での様子を担任に事前に聞いておき、一緒に考える内容を用意しておく。</p> <p>②行動や言葉がけについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト2つを提示し、どちらのほうが、友だちとうまくいくかどうか選ばせてから、選んだ理由を聞いて状況の確認をした。</li> <li>・適切な行動・不適切な行動の両方について、相手の表情を書き込む・心の中のつぶやきを書くことで、行動の結果相手がどのように考えるか気づききっかけとする。</li> </ul> <p>③練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言い方や行動の練習をして、できたら称賛し、「実際に使っていこうね」と前向きに行動できるような言葉がけをする。</li> </ul> <p>④俳句作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけた、友だちとうまく関わるコツを俳句で表す。</li> <li>・俳句をハート型の画用紙に書いて教室に掲示し、常に意識できるようにする。</li> </ul>  <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を言うことが得意なので、素直に人物の気持ちや結果を考えることができた。</li> <li>・練習したことが少しずつ言われなくてもできるようになっている。</li> <li>・児童の担任と児童の様子を共有し、できていたら双方から褒めるようにすることで、良い行動が少しずつ増えてきた。</li> </ul> <p>参考：イラスト版子どもの発達サポートヨガ（合同出版）、発達障害のある子への「自立活動」指導アイデア 110（明治図書）</p>	

中学校、高等学校：学習面・生活面・  
心理的な安定に関する課題への指導

中学校	自立活動の目標や内容を設定するための実態把握チェックシートの活用
-----	----------------------------------

★対象生徒 全学年

★作成目的

- ・通級開始に向けて行う面談時に、保護者や担任が本人の課題や特性をどのように捉えているか知るため。
- ・保護者や担任から聞き取ったり自分が見取ったりした生徒の実態や課題を、自立活動の項目に対応させて指導につなげるため。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

\_\_\_\_\_の実態チェック \_\_\_\_\_ 記入日 \_\_\_\_\_ 記載者 保・担・通

		の実態チェック	記入日	記載者 保・担・通
1 健康の保持	1 生活のリズムや生活習慣の形成	生活のリズムや生活習慣 備食 清潔 体温調整		
	2 病気の状態の理解と生活管理	病気の理解と改善のための自己管理 服薬		
	3 身体各部の状態の理解	正しい姿勢 運動（微小粗大）		
	4 薬がいの解薬の理解と生活環境の調整	特性の理解 生活環境・支援の調整		
	5 健康状態の維持・改善	健康を維持・改善		
2 心理的な安定	1 情緒の安定	注意集中の持続 不安や緊張を軽減できる 思いと違うことに折り合いをつけて応じる 特定の物や常同行動から離れても安定している 自傷行為・他害行為がない		
	2 状況の理解と変化への対応	見通しを持ち日程の変更に対応できる こだわり 臆断がない		
	3 障害による学習上又は生活上の困難を認識・克服する意欲	できないこと・不安なことにも取り組む		
3 人間関係の形成	1 他者とのかかわり	信頼関係を築く 人とやりとりができる 指示を理解し行動できる		
	2 他者の意図や感情の理解	他者の意図や感情を理解し行動できる 自分の行動を振り返って表現できる		
	3 自己の理解と行動の調整	誤った行動を理解しやり直すことができる 思いを言葉や態度で伝えることができる		
	4 集団への参加	集団に参加できる 手順や決まりを理解できる 勝敗にこだわらない 会話の背景を理解し協力できる		
4 環境把握	1 保有する感覚	色んな物に触れ感触を受け入れられる 注視追視、必要な音に注意をむける 身体の動き（前後左右上下回転）の変化に応じて動く		
	2 感覚/認知の特性の理解と対応	不快な刺激に対処できる 得意な認知方法で物事を理解できる(聴覚視覚)		
	3 感覚の補助/代行手段の活用	支援の周囲への周知 ツールを使って、状況を把握できる		
	4 周囲の状況の把握と状況に応じた行動	目的や状況に応じて身体を動かすことができる ICTなどのツールを使うことができる		
	5 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	片付けができる 時間月日季節の経過、時計・カレンダーの利用 事物の特徴を理解し仲間わけができる		
1	姿勢と運動・動作の基本的技能	姿勢を保って立てる、座れる ボールを使った運動ができる		

[成果]

- ・保護者との面談で、聞き取る内容を明確にできた。
- ・検査結果と照らし合わせて、指導内容を考えることができた。
- ・保護者に「自立活動」の内容の説明を具体的にできた。

中学校	安心して登校し、活動に主体的に取り組むための指導
<p>★対象生徒 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校傾向、学校に来ても授業に入りにくい、相談室へ行くことが多い。</li> <li>・特定の話題を特定の教員や話しやすい友達と話すことを好む。</li> <li>・ゲームやタイピングに興味がある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときは、助けを求めることができる。</li> <li>・学校に登校できる回数を増やす。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① ソーシャルスキルトレーニング</p> <p>○毎回、テーマを決めて、自分の思いを表出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを用意する。</li> <li>・そのときの気持ちを書く。</li> <li>・困ったときの対処方法や折り合いの付け方を考える。</li> <li>・本時の振り返りをする。</li> </ul> <p>○注意したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の課題に合ったテーマにすること。</li> <li>・なかなか思いつかない場合は、こういう人がいたら架空の人物について想像しながら書かせる。 「〇〇さんはこんな状態で困っているよ。アドバイスをしなさいよ」</li> </ul> <p>② 教科の復習や興味のあることをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットでゲーム感覚でできる数学の問題をする。</li> <li>・タブレットで興味のあるタイピング練習をする。</li> <li>・社会科の歴史を調べる。(図書室の本を使って)等</li> </ul> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★ 不登校傾向のある生徒であるが、毎回の通級を楽しみにしており、学校行事が続き、通級がなくなったときには、「〇回なくなった」と言うほどである。2学期後半は、学校でとても生き生きと過ごしている。しかし、教室では少しの授業しか受けておらず、相談室利用が多い。</p> <p>★ ソーシャルスキルトレーニングを通して、自分のことがよく分かっていて、人との関わりも自分なりに調整しながら関わっていていることがよく分かった。また、12月の通級の時間に学校で好きな時間を聞くと、「友達といろいろな話をする時間や好きなことをする時間」と答えたので、とても居心地よく相談室でも過ごせていることが分かる。ソーシャルスキルトレーニングは継続し、本人に自信を持たせたいと思う。</p>	<div data-bbox="927 728 1388 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テーマ 「苦手なことってみんなあるよね」</p> <p style="text-align: right;">名前 ( )</p> <p>わたしは、(人付き合い)が苦手です。</p> <p>その場面に出くわしたら、こんな気持ちになります。  <i>自分の中で感情が落ちたとき、自分自身で          感じたことが、どうも思えて          悪気が下がります</i></p> <p>そのときは、こうしてほしいです。</p> <p>でも、どうしてもしなくてはいけないときは、          こんな気持ちで  <i>(理不尽でも社会がどうも愛せない)</i>          こういう風に  <i>(つづける)</i>          しています。</p> <p>振り返り <i>人間関係がどうも愛せない</i></p> </div>



中学校	自身の長所を生かし、成功体験を積むことで達成感を味わえる指導
<p>★対象生徒 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味がいったり、自分で目標が立てられたら、集中して取り組むことができる。</li> <li>・授業中に発表することについて、苦手意識を抱いている。</li> <li>・自尊感情が低く、自分の長所について述べるできない。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容について、明瞭な声で発表することができる。</li> <li>・自己を振り返り、長所について理解を深めることができる。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①プレゼンテーションを用いて発表会</p> <p>○学習テーマを学校行事（屋島集団学習）に設定し、体験を踏まえてスライドづくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を持った内容や体験について振り返ることで、発表を行うイメージを持てるようにする。</li> <li>・クイズをプレゼンテーションに織り交ぜることで、相手意識を持つとともに、やり取りを楽しむようにする。</li> </ul> <p>②リフレーミング活動</p> <p>(1) 発表の成功体験をもとに、苦手に挑戦できた喜びや達成感を抱けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手と感じている発表に自信を持たせるために、プレゼンテーションの工夫点や発表で意識したことを振り返らせる。</li> </ul> <p>(2) リフレーミング活動を通して、自己の短所への見方を変えて今後の生活につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の短所を紹介し、一緒に長所を考える。教師の長所を見つける活動を導入として行い、リフレーミング活動に円滑に取り組めるようにする。</li> <li>・教師の例を参考に、自己の短所をリフレーミングする。</li> </ul> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 担任にプレゼンテーションを聞いてもらう機会を設けることで、通級での頑張りを認めてもらう機会につなげることができた。</li> <li>★ 興味を持った内容をどのようにスライドにまとめるか、意欲的に話し合うことができた。</li> <li>★ 発表に対して苦手意識を抱いていたが、クイズを作成するために活発に意見交流を行うとともに、明瞭な声で発表をした。また、集団学習で体験した活動について振り返りを充実させた。</li> <li>★ 短所に対して肯定的に考えることを初めて行った。また、級友の長所を見つけていきたいとの前向きな発言が見られた。</li> </ul>	

中学校	「できる」ことを増やし、自己肯定感を高める指導
<p>★対象生徒 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を書くのが苦手である。板書が正確に写せない。</li> <li>・状況理解が不十分で、物事に集中できず、トラブルが多い。</li> <li>・学習などに自信がもてず、自己肯定感が低いと思われる。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面等で、「できる」ことを増やす。入試に向けて、読める漢字を増やす。</li> <li>・絵カードを用いて、物事の状況把握のための視点を養う。</li> <li>・適切な進路を決定することができるよう、周囲と協力し、サポートする。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容や指導方法]</p> <p>通級指導教室で週1時間の個別学習をした(国語の時間の取り出し)。「ぼくは…できない。」という言葉をよく言い、自分の長所を挙げるができない。毎時間、本人の思いをじっくり聞くことから始めた。また、「入退室時のあいさつやお礼が言える」、「タブレットなどを相手に見やすいように向きを変える」、「期末懇談では、帰り際に靴箱から母親に靴をとってあげる」、「パソコンが得意」など、できていることをその都度本人に伝えるようにした。</p> <p>[学習の流れ] …課題は1, 2個にしぼる。複数行う場合には、取りかかる順番を決めてもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 漢字の学習(読み漢字) <ul style="list-style-type: none"> <li>『5回読めたら卒業ルール』で、毎回50問ほど、漢字を見て読みを言ってもらう。5回正解だったものは、削除し、新しい漢字を加える。正解には、シールを貼ったり○を付けたりして可視化する。</li> </ul> </li> <li>2 コグトレなど</li> <li>3 高校入試の面接練習や面接原稿の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で文章にすることは難しいので、話してもらった言葉を書き出し、こちらでまとめた文をもとに、本人と相談しながら、文にまとめる。</li> </ul> </li> <li>4 興味のあることや心配なことなどをタブレットで検索したり、おしゃべりするフリータイム</li> </ol> <p>○使用した教材</p> <p>『漢字コグトレ』・『英語コグトレ』・『1日1分教室で使えるコグトレ』 東洋館出版社  『SST 絵カード 状況の認知絵カード』～中高生版～ 株式会社エスコアール 等</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読みは、授業で使用しているワークの漢字がたくさん読めることがわかり、意欲的に取り組んだ。</li> <li>・進路については、保護者や学級担任の支援で、本人の希望する学校に見学に行くなどしており、少しずつ準備ができています。高校では、「友達を作ったり、～の授業が楽しみだ。」など、前向きな発言が聞かれるようになった。</li> <li>・交流学級での授業は、寝ていることが多く、学習面での不安や自信のなさは抱えている。</li> </ul>	

中学校	時間を設定し、集中して活動に取り組むことができるような指導
-----	-------------------------------

★対象生徒 (ADHD)

★対象児の特徴

- ・集中力が続かず、全体の指示では伝わらないことがあり、取り掛かりに時間がかかる。
- ・英単語のつづりが覚えられておらず、正しく書くことができない。
- ・英単語の意味が覚えられていない。

★目標

- ・活動に集中して取り組むことができるようにする。
- ・英単語のつづりと意味が一致するようにする。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①ワードサーチ (単語探し) :

10分間で、表の中に隠れている単語を見つけて線を引く。比較的簡単な単語から探す。導入で行うことで集中力が増す。

after (～のあとに)	minute (分)	r f y a d r u t a S
answer (答える、答え)	mother (お母さん)	e J a p a n e s e n
brown (茶色)	movie (映画)	w W r S W r i t e a
chair (いす)	open (開ける)	S o m e t i m e s e
change (変わる)	Saturday (土曜日)	n m M i n u t e C M
Chinese (中国の、中国人)	seventeen (17)	A a O p e n d r H o
country (国)	sometimes (時々)	B n v t e n i e a M
curry (カレー)	student (学生)	r F i v e a r D n o
dinner (夕食)	these (これらの)	o h e T h e s e g t
five (5)	watch (腕時計、見る)	W S s C u r r y e h
here (ここに)	white (白)	n i C o u n t r y e
Japanese (日本語、日本人)	woman (女性)	L x C h i n e s e r
listen (聞く)	write (書く)	h c t a W A f t e r
mean (意味する)		

②辞書の早引き活動 :

5分以内で教科書に出てくる単語を辞書を使って調べ、品詞、意味、読み方をワークシートに書き写す。単元ごとの新出単語を扱うことでその単元での学習内容につなげることができる。

<ワードサーチ>

③本文書き写し :

5分間で教科書の本文を書き写す。1度学習した本文を書き写すことで、単語の練習にもつながられる。

Let's use a dictionary!!

★英和辞典を使って、次の言葉の品詞、読み方、意味を書こう。

	単語	品詞	読み方	意味
①	wake			
②	wake up~			
③	rest			

[児童生徒の様子、成果]

<辞書の早引き活動>

- ・ワードサーチでは、はじめは時間内に少ししか単語を見つけられなかったが、集中して取り組むことにより、見つけるスピードが徐々に上がり、たくさんの語を見つけられるようになってきている。
- ・辞書の早引き活動では、1度辞書で調べた単語の意味や読み方がわかるようになっている。
- ・本文書き写しでは、書く速さが少しずつ上がっており、短い時間内での活動のため集中して取り組むことができるようになっている。また、単語の写し間違いも少なくなっている。

中学校	より良い行動のできる自分を目指そうとする意欲を高める指導
<p>★対象生徒（ADHD傾向）</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわりが強く、他人の助言を聞き入れずに自分が思うことを通そうとする頑固さがある。</li> <li>・気持ちの浮き沈みが激しく、安定している時はたいへん明るく振る舞い、学習活動にも積極的に取り組むが、不安定な時には、無気力になったり、不機嫌になったりすることがある。</li> <li>・SNS等の利用の仕方に課題がある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況を正しく把握し、場に応じたよりよい言動を考えることができる。</li> </ul> <p>【自立活動 3人間関係の形成-（3）・6コミュニケーション-（5）】</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>単元名「素敵な高校生になろう」…本生徒の意欲を喚起する単元名を工夫している。</p> <p>① 1週間の振り返り</p> <p>○困っていること、よかったこと、がんばったことなどを話す。</p> <p>よかったこと、がんばったことが言えたら、振り返りカードにその内容を書き、項目の数だけシールをはる。できてよかったこと、楽しかったこと、うれしかったことなどを意識させることで、自己肯定感を高める手立てとする。シールは、本生徒の好きなキャラクター等のデザインで自作している。</p> <p>② 今日の国語（週1時間、国語の時間に取り出しによる指導をしているため、所属学級で行われている授業の内容を短縮して行う。）</p> <p>○漢字の書き取りテスト</p> <p>国語の時間には毎回10問の書き取りテストをしている。通級指導教室では、2分程度、テスト範囲の見直しをさせることで、正しく書くことを意識させている。</p> <p>○今日の国語</p> <p>③ 「こんなときどうする？」の課題</p> <p>○状況の認知絵カードを見て、どのような状況か把握する。</p> <div data-bbox="917 1254 1420 1422" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にも同じような経験がないか思い出させる。</li> <li>・人物の行動や表情に注目することで気持ちを想像させながら、状況を把握させる。</li> </ul> <p>○絵に示されている場にふさわしい言動を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者からも質問したり意見を述べたりするなどして、意見交換をしながら生徒の考えを引き出す。</li> </ul> <p>④ お楽しみ「I SPY ミッケ（小学館）」</p> <p>○指導者と一緒に絵本「ミッケ」を見る。</p> <p>最後の5分程度を「お楽しみ」の時間とし、生徒の好きな絵本「ミッケ」で「もの探し」をしている。この時間を楽しみに、意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>本生徒は、将来の目標と志望校を定め、学習への姿勢も2年時と比較して前向きになってきた。そこで単元名を「素敵な高校生～」とし、生徒が取り組みやすい絵カードを使って学習を進めることで、1年後の自分の姿を具体的に想像し、よりよい行動のできる自分をめざそうとする意欲が高まってきている。</p>	

中学校	他人に必要なことを聞いたり、話したりすることが苦手な生徒への指導
<p>★対象生徒 (広汎性発達障害、ADHD)</p> <p>★対象生徒の特徴 本人は「自分から（友だち以外の）他人に（話を）聞くのが苦手」であり、グループ討議や他の人とのコミュニケーションを図る場面において困難さがある。</p> <p>★目標 ・自分の役割を果たすために、必要なことは関係する人に聞くことができる。 ・自分の考えを友だちでない人にも話すことができる。</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>対象生徒の委員会活動における困りごとをもとに、目標への実践につなげる指導事例</p> <p>【事例】対象生徒が生徒会専門委員会で提出すべき書類が間に合わなかったこと。そして、そのことで担当教員から昼の校内放送で連絡されたが提出できず、指導を受けた。</p> <p>→通級指導の時間に以下のように指導して、本人の意識化を図る。</p> <p>(1) 状況確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①書き方がわからなくて間に合わなかった。</li> <li>②女子の委員が書き方を示した紙を持っていて、本人は知らなかった。</li> <li>③昼の放送の指示で行く場所がわからず、担当教員に会う為に職員室に行ったが会えなかった。</li> <li>④書類が間に合わなかったことはいけないことだ、と自覚している。</li> </ul> <p>(2) 上記の①～④について、どうすればよかったかを振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①②女子の委員に自分から書き方を聞けばよかった。</li> <li>③昼の放送をしっかりと聞いて、行く場所を確認するとよかった。</li> <li>④書類を気にして、もっと早くから取り組むとよかった。</li> </ul> <p>(3) 次からどのように行動すべきかを考え、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のすべきことが分からないときは、分かっている人に自分から聞く。</li> <li>・提出物の締切を意識し、余裕をもって早くから取りかかる。</li> <li>・放送や伝達があったときには、自分の役割に関するかどうか気を付けて聞く。</li> </ul> <p>[生徒の様子、成果]</p> <p>★実際に起きた困りごとから 1 週間後であったが、自分のできなかったことを見つめさせ、どうすればよかったか、今後どのようなことに気を付けていけばよいか等、自分の言葉で語らせた。その後の専門委員会の提出書類は期日に間に合うようになり、女子の委員に必要なことを聞くこともできるようになった。グループでの話し合いでは、ぶっきらぼうな面はあるが、自分の考えは話すことが増えている。課題を解決するための対話を通級担当と SST を通して実践したり、学級での発言時に教員や周りの友だちから声掛けをしてもらったりして、自分の考えを発言する機会は増えている。</p>	



中学校	好きなことや得意なことを話すことで主体性を育む指導
<p>★対象生徒 (LD傾向)</p> <p>★対象児童生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 趣味が多く、得意なことや学校・家庭での出来事等について表情豊かに話すことができる。</li> <li>• 読解力が低く、読み取ったり適切な語句を用いて文章を書いたりすることが苦手である。</li> <li>• 持ち物の整理が苦手で、提出物を期限までに出不せないことが多い。特に2学期以降、週末課題やテストの際の提出物などが提出できなくなっている。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 語彙を増やすとともに、音読を通して読解力をつける。</li> <li>• 週末課題やテストの際の課題など、期限を守って提出できるよう計画的に取り組む。</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分について語る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好きなことや得意なこと、一週間の学校や家庭生活における出来事等を話題にして、自ら話すことができる。→ 文章で書くことができる。</li> </ul> </li> <li>2. 音読を通して読解力をつける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 絵本『生麦生米生卵』（ほるぷ出版 長谷川義史作、齋藤孝編）の早口言葉を取り入れて、ことばへの親しみをもつ。</li> <li>• 国語科の授業で学習している内容を最初は段落ごとに教師と交代で、最後は全文を読む。</li> <li>• 分からない言葉や漢字はタブレット端末で意味を調べ、理解したうえで再度音読する。</li> <li>• 「いろは歌」や「竹取物語」の暗唱の練習をし、本番に自信をもって臨むことができる。</li> </ul> </li> <li>3. 語彙を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業で行われている漢字テストやそのプレテストを進度に応じて行う。(教科担任と連携) (漢字の意味の確認・間違っ覚えていた漢字の訂正・プレテストでの意欲付け)</li> <li>• 教材『漢字の学習』を用いて、音読みと訓読みの両方を押さえながら練習する。</li> <li>• 『コナンの10才までに覚えたい難しいことば』を用いて、アニメ好きである本人の興味をそそりながら、文章の中でどう使われるかも合わせて覚える。</li> </ul> </li> <li>4. テスト計画の見直しや週末課題の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 期限を守って課題を提出できるか共に考え、通常学級で立てたテスト計画表を見直す。</li> <li>• 前の週の週末課題の一覧表で提出状況を確認し、できたものにシールを貼り意欲付けをする。</li> <li>• その週の週末課題となるワーク類に付箋を貼らせ、範囲を明確にする。</li> </ul> </li> </ol> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 部活動や家での様子についてはとても表情よく語ることができおり、また、音読や語彙力アップの活動にも前向きで、ことばへの親しみや声に出して読むことへの興味がうかがえる。</li> <li>• 苦手なことの話題になると自分の気持ちをそらそうとし、課題提出に関してはまだ不十分であるが、学級担任や教科担任との連携を図りながら、少しずつ向上してきている。</li> </ul>	